

【加渡】

どうでしょうの会場の皆さん、消費者の方、たくさんいらっしゃると思うんですが、やっぱり有機農業の現場とか有機農業の情報って知りたいですよ。皆さん、こう縦にうなずいてくださってます。でも、その情報ってどこ行ったら入手できるんだろう。どうやったら見せてもらえるんだろう。どうなるんだろう。なかなかそれってよく御存じないと思うんですね。なのでやっぱり生産者が今御説明いただいたように、こういうふうに工夫してこんな困難な中からやってるんです。消費者の方にもここで想い届けたい。こんな情報を届けたい。何かこう消費の現場と生産の現場をつなぐような連携ってどうでしょうできないでしょうか。

【田淵】

昨年、四国大学のゼミの中の単位の一つに、うちの農園をお手伝いすることに組み込まれた先生がいらっしゃいまして、2回ほど手伝いに来ていただきました。大学生の若い方なんで、有機や食についての意識はまだ芽生えていないんです。農園に来て実際に農作物に触れたり、いちごを食べてもらったりするそういう機会や経験によって、将来、そういうことだったんだっていうきっかけになってくれればいいなと思っています。是非来年も四国大学のゼミで当園を訪れていただければと思っています。

【加渡】

ありがとうございます。同じような質問を阿部さんにもさせていただきたいんですが、生産の立場から流通、お店、あるいは消費者に何かこう提案できること一緒にできること、あるいはこういうふうな課題があるから手伝ってもらえないとか、何か投げかけるものってございますでしょうか。

【阿部】

そうですね。うちの農園も最近、若い方が興味ある方が何週間も体験だけや、海外からもあります。上勝町はゼロウェイストというものがあるので、海外からもいろんな有機農業に興味ある人とかが来てくれてディスカッションをする場っていうのがあるので、私はすごい恵まれています、日本の方より海外の方が興味あるなって思っています。やっぱり学校給食ですとか、小さい時からそういうふうに学校で何かそういうチャンスというか、みんなが経験できる場所とか、味もですし、オーガニック野菜食べたことないっていう人も、高校生が来た時も言ってたし、もっとその小さ

い時からそういうのを経験できる場が何か作れたら、もっと話が簡単に大人になってもなっていくんじゃないかなと最近よく思います。

【加渡】

やっぱり経験とかそれは一つある意味で教育という分野にも関係してきますか。

【阿部】

私は身近に特定のお母さんがすごい興味がある方で、家は全部オーガニックとか、そういう子は結構多いんですけど。でも全くそういうのは食べたことないとかいう人も半分ぐらい高校生とかでいらっしゃるので、みんなが平等にこう食べたらもっとディスカッションを若いうちからできやすいし、もっと簡単になるんじゃないかなって思います。

【加渡】

会場の皆さんいかがでしょう。夕食でにんじんがあつたら、その夕食の中でこのにんじんは実は有機で作られた野菜よ、みたいな話題が食卓を囲んだ時に話が弾みますでしょうか。うんみたいな感じで、なかなかそこはそういう話題にはならないなという反応ですが、そういう意味で白桃さんどうでしょう。やっぱり有機農産物を広めていくあるいはエシカル消費で買い支える。あるいは今やってらっしゃるフードハブ・プロジェクトを進めていく。その根底には、やはり教育小さい時からやっぱりそういうものをしていくっていうのも大事じゃないかと思うのですが、その辺ってどのようにお考えになりますか。

【白桃】

やっぱりその教育というところはすごく大事だなって我々も思っております。先ほども言いましたが7年前からですね、食育として保育所、小学校、高校とかに行って、実際に農作物を育てる授業をしてきました。

例えばお米の授業であれば、みんなで種から苗を立てて、手で植えてもちろん機械でも体験してもらったりとかしながら、草取り、手やコンバインで収穫したりってことでやっていたんですよ。本当に教育は大事だなと思ったことが最近ありましたが、6年前に一緒に稲刈りの体験、お米作りの体験した女の子達にちょっとインタビューをする機会があって、その子達が身近な風景が変わって見えたっていうことを言ったんです。何かそれまでは通学途中で何か風景として農家さんがお米作りをしている。何かやってるなあぐらいにしか見えてなかったものが、その体験を学校の授業で一緒にやることによって何かすごくこう暑い中でおじさんが作業をして

いて大変そうだな。何でそんなに大変なことをするんだろうとか、やっぱり想像ができるようになった、ものの見方が変わったっていうことでした。その話を聞いて体験が等しく、みんなに届く場所っていうのはやっぱり学校、学校教育で、食育や食農教育を取り入れてやるのが、物事の表面だけじゃなく、奥を見る力を養うことにつながるのかなと感じました。

有機農業だけじゃないと思うんですけど、色んなこうエシカルの取組であるとか、SDGs は多分、その経験をするによって別の見方も農業以外、食以外の見方もできるようになると、すごく大事な視点かなと思ってます。

【加渡】

ありがとうございます。泉川さんから先ほど誰もが有機農産物を食べることができる社会を作っていきたいんだというようなことがございましたけれども、どういう具体的な取組がこれから進んでいくんでしょうか。何かこういう計画もしています。こういう活動を続けていきたいと思ってますっていうようなことがありましたら、是非教えてください。

【泉川】

学校給食にもすごく力を入れようとしているところでもあります。やっぱり一番大事なのは生産現場を見ていただくということで、本当に組合員活動でももちろん、理事研修や交流でもセンターのピッキングの現場を見ていただくとか、生産者の方のところに行って、生産者の話を聞く収穫体験をするなんかいうことも、今以上に大切にしていかなければいけないなと思います。教育というところで言いますと、やはり大人の方の知識がまだまだだと思います。このミツバチがいなくなったっていう現実のように固形の農薬とかのことをやっぱり知っていただくために、自然派のカタログってもう永久保存版していただけるぐらいにカタログ上にいろいろな知識とかを掲載してるんですけども、もっともっとその辺も力を入れていきたいなとは思っています。

【加渡】

ありがとうございます。やっぱり消費者の力というのは、佐野会長、非常に大きいものがあると思います。消費者の権利っていうのは安全なものを選択できる。これも権利ですし、消費者の声を届けて、それを聴いてもらうというのも権利だと思うんですけども、どうでしょう。有機農産物に関して会員の方、皆様からどんなお声が届いてますか。あるいはそれを反映して、これからどのような消費者教育が必要だというふうにお考えでしょう。

【佐野】

有機農産物につきましては、やはり取扱店舗の少なさっていうのがまず挙げられると思ってるんです。会場にお越しの皆様ですと、明日でも買ってみようかなと思ってお店に行っても、どれが有機なのかなとか。お野菜の場合は有機って書いてくれと言ったらすぐと思うんですけど、ちょっと加工したものとかですと、どれがそうかなってずっと探さないと出会わないと言いますか、有機 JAS マークございますけれども、やはり表示されると小さいものになりまして、お店に行ってみて感じたことは、つけれるものは頭に有機という言葉をつけて大きく表示をするっていうことも一つあると思うんです。

現在でも有機ごまですとか、有機トマトケチャップですとか、あるいは有機野菜 100%ジュースとかいうふうに大きな活字を使ったものもございますけれども、まだまだ表示が小さくて買ってみようかなと思う方まで届いていないって言いますか、そういうところがあると思いますので、そういう表示の面、品名の面なんかをクリアにしてみんなにわかりやすくしていただけたらということと、あと、スーパーさんにおきましても有機のコーナー的なものをつくっていただいて、先ほども地球を守っているっていうふうな意識が消費者にも必要っていうお話もございましたけれども、コーナーで訴求力のある言葉で問いかけて説明をして、皆さんにそれでこれだったら買ってみようかなっていう気持ちにさせれるような、そういうところをちょっと作っていただけたらというふうに思っております。

私は、過去にマイバッグ運動とか消費者協会でやっておりましたので、そのときには店内でマイバッグの歌が流れたりしておりました。今回も食育の日っていうのは毎月 19 日ですが、そのときに店舗で放送していただいて、今日は何の日、食育の日っていうふうな形で、そこでちょっとこう有機の食品とか有機野菜の説明をしたりして、みんなの認知度を高めていくっていうふうなそういうことはわりと手っ取り早くて販売店舗の方に協力していただけたらすぐにでもできるんじゃないかなという風に考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【加渡】

ありがとうございます。今日は生産のお立場から、そして加工流通消費のお立場からパネリストをお迎えしてのディスカッションを進めてまいりました。最後にパネリストの皆様から一言ずつ、今日のディスカッションを通して感じられたことを御意見として頂戴できればと思います。ちょうどマイクは佐野会長の所にございますでしょうか。はい。佐野会長から一言ずつお願いいたします。

【佐野】

すごく有機について学ぶことが出来まして、やはりこういう機会が他の方々にもぜひ必要だなというふうに感じましたので、また講演会等でも普及していただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【加渡】

ありがとうございました。それでは泉川さんお願いいたします。

【泉川】

はい。生業としての農業に循環保全の視点をプラスしてってもらいたいなというのと、農薬化学肥料を減らして循環型資材に変わっていく必要性を経営上でも必要になってくる時代が変わってきているので、消費者の皆様には現状の理解と生産者がそこにかかる労力が今まで以上にあるということに理解をしていただきたいなと思います。今日は所属が違いますけれども、このような同じ思いを持った方々とこのような時間が持てたことが大変うれしいし、私自身大変勉強になりました。できることから、引き続き有機農業を推進していきたいと思っておりますので、また連携して一緒にできることがあればと思いました。ありがとうございます。

【加渡】

ありがとうございます。それでは白桃さんお願いいたします。

【白桃】

今日ですね。もう私が始めた7年前からすると、こういう有機農業フェアということで、皆さんの前で話すことなんかもう想像もしてなかったなっていうのは率直な感想としてあります。でも、先ほど田淵さんもおっしゃられていたように、何かこういうフェアがなくなるぐらい、有機農産物とか安心安全なものがちゃんと消費者に届く環境とか、そういうものがやはり進んでいけたらいいなと思います。有機 JAS マークなくても大丈夫っていう世界が少しでも近づけばいいなと思って、今日は皆さんとお話をさせていただいておりました。

【加渡】

ありがとうございました阿部さんお願いいたします。

【阿部】

はい、私も本当に7年8年ぐらい前、白桃さんと同じぐらいで、こういう話を自分がここでできるというのはすごいびっくりです。ここ最近気候が本当に大変なぐらい毎年変わってきています。種も私の知識では日本には80%ぐらい海外から輸入しているので、もし戦争とかが始まったら食糧がちょっと不安みたいなところがあります。生産者とか消費者とかいろいろな分野の方がこうしたディスカッションから知らない知識を取り入れて、また、有機農業とかを盛んにさせていくっていうのは本当に素晴らしいし大事だと思いました。

あと、徳島県は有機農業の小祝先生がいらっしゃることもありますけども、すごいほかの地域と比べたら進んでいると私は思っていて、それって私は海外に結構10年ぐらい行ったんですけども、あのオーガニックって本当に結構すごい価値があるものと世界では見てますので、せっかくいい人材とか環境がある。だから、もっとそれを大事にしたら、徳島県の価値が上がって世界からも注目されるようないい場所になるんじゃないかなともいつも思ってます。本当に今日勉強になりました。ありがとうございました。

【加渡】

ありがとうございました。それでは田渕さんお願いいたします。

【田渕】

農政局（徳島県拠点）主催の有機農業フェアは第1回目だったと思うんですね。最初に農政局さんから話があった時は大変驚きました。本当についてこの国が動き始めたんだと思いました。今回は1回目のフェアが開催されて、いろんなことで大変だったでしょうけど、まずは関係者の方に心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

昨今持続可能だとか、いろんな言葉がささやかれてますが、僕の中では、そういう持続可能祭りみたいな感じに聞こえるんですけど、裏を返せば、危機的状況がすぐそこまで来てるんだよっていう風に捉えられませんか。農業をしていたら隣の古いきゅうりを作っているおじいさんと話しをして、昔はミツバチがいっぱいいたのになあ、今全然おらんのよと。もう人工受粉するしかない世界、ミツバチが消えたらどうなりますか、人間は生きられないんです。想像してみてください。持続可能っていう言葉ばかり先行してますけど、持続不可能な世界を想像してみてください。恐ろしい世界が待ってます。間もなくそういう世界が訪れるかもしれないってところ、危機的状況まで来てるってところを認識して、これから本当に次世代の人達の未来が輝くような後世に、素晴らしいものを残せる

ような社会作りに一緒になって取り組んでいかななくてはなりません。真剣になって、必ずできるはずです。頑張っていきましょう。

【加渡】

はいありがとうございます。今日はですね。有機農産物をエシカル消費で支えるということをテーマに、5人のパネラーの皆様とディスカッションを重ねてまいりました。会場でご参加いただきました皆様、それからウェブで視聴していただいている皆様、長時間にわたりお付き合いをいただきありがとうございます。

今だけここだけ私だけからですね、今からここから私からアクションを起こして、そして持続可能な地域、持続可能な食の未来を皆さんと一緒に考えていく。そんなきっかけの1日となりましたら、幸甚でございます。最後になりましたが、5人のパネリストの皆様に大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございます。それでは以上をもちまして、第二部のパネルディスカッション終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【司会】

加渡先生パネリストの皆さん、どうもありがとうございました。本日は限られた時間でしたが、ご参加の皆様におかれましては、さらに有機農産物に対する興味を高めていただければ幸いです。以上で徳島有機農業フェア消費者団体等とのパネルディスカッション終了いたします。本日、会場参加の皆様にはお帰りの際、配布資料の中にございますアンケート用紙に御記入いただき、テーブルの上に置いていただくか、会場出口のアンケート回収箱に投函していただきますようお願いいたします。また、WEB参加の皆様につきましては、後日アンケート用紙をメール配信いたしますので、御協力をお願いいたします。今後の会議開催等の参考とさせていただくため、御協力をよろしくをお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。